

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 学校法人 湘南ふれあい学園

研修事業の名称 湘南ふれあい学園 介護職員初任者研修 通信コース

1 職務の理解 (6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	2時間	1時間	1時間	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修課程全体の構成と各研修科目の相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率、効果的に学習できるような素地の形成を促す。 介護保険による居宅及び施設サービスの種類と、サービス提供に至るまでの流れの理解を深める。 介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的の理解を促す。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4時間	2時間	2時間	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚教材等を工夫するとともに、見学を組み合わせ、介護職が働く現場や仕事の内容を、できる限り具体的に理解できるようにする。 各種サービスの内容や利用者などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場の理解を促す。 ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れの理解を促す。 チームアプローチの必要性と具体的な連携法の理解を深める。 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設見学を行い、「どのような人達が入所しているのか」「どのような環境で生活しているのか」「どのような職員が働いているのか」「どのような支援を行っているのか」を見学シートに記入する。その後、グループで意見交換を行い発表し、最後に講師が補足説明及び講評を行う。
合計	6時間	3時間	3時間		

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	5時間	0.5 時間	4.5 時間	2-1～ 2-8	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ・虐待や身体拘束を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待・身体拘束禁止に対する理解を促す。 ・介護分野におけるICFやQOLの考え方の理解を深める。 ・個人の権利を守る制度の概要として、個人情報保護法や成年後見制度など、日常生活自立支援事業の理解を深める。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持 ・ICF ・QOL ・ノーマライゼーション ・虐待防止、身体拘束禁止 <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場において尊厳を無視している事例を取り上げ、「利用者の気持ち」「介護職員の気持ち」「事例に至った経緯」「望ましい対応策」をグループで検討し発表する。その後、講師が講評を行う。

②自立に向けた介護	4 時間	0. 5 時間	3. 5 時間	2-9～ 2-15	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を複数提示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防の考え方に基づいたケアを行うことの違いを理解し、自立という概念に対する気づきを促す。 ・具体的な事例を複数提示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら、自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護予防の考え方の理解を深める。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援 ・介護予防
合計	9 時間	1 時間	8 時間		

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	0.5 時間	1.5 時間	3-1～ 3-5	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性についての理解を促す。 ・介護職としての共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療や看護との連携の必要性について理解を促す。 ・介護環境の特徴（施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など）の理解を深める。 ・利用者を支援するさまざまな専門職についての理解を促す。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種
②介護職の職業倫理	2時間	0.5 時間	1.5 時間	3-6～ 3-9	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族と関わる際の留意点について、ポイントを理解できるよう促す。 ・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領の理解を深める。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護福祉士の倫理

③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1 時間	0. 5 時間	0. 5 時間	3-10 ～ 3-15	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援の場では会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを理解できるように促す。 ・事故予防や安全対策として、リスクマネジメントや事故に至った経緯の報告・情報の共有等の理解を促す。 ・感染対策や感染に対する正しい知識を身につけられるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に洗面所を使用し、正しい手の洗い方の手順等を実践する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策
④介護職の安全	1 時間	0. 5 時間	0. 5 時間	3-16 ～ 3-21	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、腰痛予防、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を理解できるように促す。 ・感染症対策としての手洗い、うがいの励行や介護職の健康管理が介護の質に影響を与えることの理解を促す。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理 ・感染予防
合計	6 時間	2 時間	4 時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	4時間	0.5 時間	3.5 時間	4-1～ 4-9	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各種サービスや地域支援の役割について理解できるよう促す。 介護保険制度の理念や基本的仕組み、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について理解できるよう促す。 ケアマネジメントの意義を理解するとともに、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについての理解を深める。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講生が住んでいる市町村の介護保険料等を調べ、具体的な学習を行う。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 介護保険制度の仕組みの基礎的理解 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
②医療との連携とリハビリテーション	2時間	0.5 時間	1.5 時間	4-10 ～ 4-16	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについての理解を促す。 在宅及び施設における介護職と看護職の役割、連携について理解を深める。 リハビリテーションの理念と考え方について理解できるように促す。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> 医行為と介護 訪問看護 リハビリテーションの理念 介護と看護の連携

③障害福祉制度及びその他制度	3時間	0.5 時間	2.5 時間	4-17 ～ 4-24	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉における障害の概念について、その歩みを踏まえ理解を促す。 ・ 障害者総合支援法の基本的なしくみについて理解を深める。 ・ 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについての理解を深める。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉の概念 ・ 障害者総合支援法のしくみの基礎的理解 ・ 成年後見制度 ・ 個人の人権を守る制度の概要
合計	9時間	1.5 時間	7.5 時間		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3時間	0.5 時間	2.5 時間	5-1～ 5-8	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて理解する。 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を理解する。 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際において、思いを把握し、感情に共感するなど信頼関係の形成等を理解する。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになって言語障害がある方のコミュニケーションのロールプレイ等を行う。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	1.0 時間	2.0 時間	5-9 ～ 5-16	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。 ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点の理解を促す。 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方についての理解を深める。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の事例を用意し、事例検討会議のロールプレイ等を行う。また、事例に沿ったフェイスシートの作成を行う。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化 ・報告、連絡、相談 ・コミュニケーションを促す環境
合計	6時間	1.5 時間	4.5 時間		

6 老化の理解（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	0.5 時間	2.5 時間	6-1～ 6-8	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢と老化に伴う生理的な変化や心身の変化、特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴についての理解を促す。 ・老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについての理解を深める。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解を促す。 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解を促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う変化に着目した事例を用意し、事例に基づく討議を行う。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化と老年期 ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
②高齢者と健康	3時間	1.0 時間	2.0 時間	6-9 ～ 6-16	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面・心理的側面・身体的側面の知識を身につけることへの必要性の気づきを促す。 ・高齢者の多くに見られる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴についての理解を深める。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解を促す。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の症状、疾患の特徴 ・高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点
合計	6時間	1.5 時間	4.5 時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	1時間	0.2 5時間	0.7 5時間	7-1～ 7-4	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解できるよう促す。 ・「認知症を中心にしたケア」から「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解できるようにする。 ・認知症を問題視するのではなく、人として接することの理解を促す。 ・できないことではなく、できることをみて支援することの理解を深める。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念、視点
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	0.5 時間	1.5 時間	7-5 ～ 7-13	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義（物忘れとの違い）や認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、治療や薬物療法について概説できるよう促す。 ・老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ・認知症に類似した症状をもつ疾病について理解し、アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因の病態、症状についての理解を深める。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、改定長谷川式簡易知能評価スケールを使用し、スクリーニングテストのロールプレイを行う。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・健康管理

③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	0.5時間	1.5時間	7-14 ～ 7-19	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状と行動、心理症状（BPSD）等の基本的特性及びそれに影響する要因についての理解を促す。 ・認知症の心理、行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方及び介護の原則についての理解を深める。また、同様に若年性認知症の特徴についての理解を促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人1組になり、利用者役・援助者役に分かれ、認知症高齢者に対する非言語的コミュニケーションを活用したコミュニケーションの演習を行う。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 ・認知症の利用者への対応
④家族への支援	1時間	0.25時間	0.75時間	7-20 ～ 7-22	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて、認知症の受容課程での援助、家族負担の軽減について理解できるよう促す。 ・家族は助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることの理解を深める。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族へのレスパイトケア ・介護へのエンパワメント
合計	6時間	1.5時間	4.5時間		

8 障害の理解（3時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1時間	0.2 5時間	0.7 5時間	8-1～ 8-4	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICF、各障害の内容、特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解できるよう促す。 ・ICFの分類や、ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて理解できるよう促す。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICF ・障害者福祉の基本理念
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1時間	0.2 5時間	0.7 5時間	8-5 ～ 8-12	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害（視覚障害、聴覚平衡障害、音声言語咀嚼障害、肢体不自由、内部障害）、知的障害・精神障害（統合失調症、感情障害、依存症、高次脳機能障害、広汎性発達障害・LD・ADHD等）、及びその他の心身の機能障害について理解できるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害に応じた社会支援のあり方のディスカッションを行う。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病
③家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	0.5 時間	0.5 時間	8-13 ～ 8-16	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の理解や障害の受容のプロセスと介護負担の軽減について理解できるように促すとともに、家族の心理を考える。 ・わが国に求められるレスパイトサービスの課題についての理解を促す。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の理解と障害の受容支援 ・介護負担の軽減
合計	3時間	1時間	2時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	3時間	0.5時間	2.5時間	9-1～9-6	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none"> ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を理解できるように促す。 ・「介護」が理論的、法的にどのような変遷をたどってきたかの理解を深める。 《添削課題出題ポイント》 <ul style="list-style-type: none"> ・理論にもとづく介護 ・法的根拠にもとづく介護
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	0.5時間	2.5時間	9-7～9-14	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none"> ・学習、記憶、感情、意欲の基礎知識や自己概念と生きがいについて理解できるように促す。 ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について理解できるように促す。 ・心の持ち方が行動に与える影響や、からだの状態がこころに与える影響について理解できるように促す。 《添削課題出題ポイント》 <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因

	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3時間	0.5時間	2.5時間	9-15 ～ 9-22	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実践に必要なからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・バイタルサインについて理解できるように促す。 ・中枢神経系、体性神経、自律神経、内部器官に関する基礎知識が理解できるように促す。 ・こころとからだを一体的に捉える事ができるよう理解できるように促す。 ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点が養えるよう促す。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の維持、向上のしくみ ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、骨格、筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	4.5時間	1.5時間	3時間	9-23 ～ 9-31	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的な知識と生活支援を学ぶ。 ・利用者の生活歴や自立支援、多様な生活習慣、価値観等がある事を理解できるように促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な栄養バランス、食材、調理方法、嗜好、予算を考えた食事の献立を作成する。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基本的知識と生活支援

⑤快適な住環境整備と介護	4. 5 時間	1. 5 時間	3時間	9-32 ～ 9-40	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具貸与等に関する留意点と支援方法が理解できるよう促す。 ・ 家庭内に多い事故について理解できるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッドや車椅子を使用し、実際のバリアフリーのポイントなどを演習を通して学ぶ。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な居住環境に関する基礎知識 ・ 高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5時間	5時間	0時間	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 装うことや整容の意義について概説でき、整容に関する基礎知識、整容の支援技術を学び、根拠に基づいて部分的な介護を行うことができるよう促す。 ・ 整容行動や、洗面の意義・効果について理解できるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアになり衣類の着脱介助を実際に行う。ドライヤー等を使用し、整容を実際に行う。
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5時間	5時間	0時間	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具、機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解でき、根拠に基づいた介護を行うことができるように促す。 ・ 自然な動きや重心、重力の動きを理解し、ボディメカニクスを活用し、利用者、介護者双方が安全で安楽な移動・移乗の理解ができるよう促す。 ・ 褥瘡予防の理解ができるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアになり、ベッドから車椅子への移乗や、ボディメカニクスを使用した体位変換、杖や車椅子の移動介助、歩行介助演習を肢体不自由者と視覚障害者の両方のタイプの演習を行う。

<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5時間</p>	<p>5時間</p>	<p>0時間</p>	<p>—</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の意味と食を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食に関するからだのしくみが理解され、根拠に基づいて介護を行うことができるよう促す。 ・低栄養、脱水の弊害や、誤嚥性肺炎の予防について理解できるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり歯ブラシを使用した口腔ケアや、プリン・ゼリー等を使用し、食事介助の演習を行う。
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5時間</p>	<p>5時間</p>	<p>0時間</p>	<p>—</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴や清潔、洗髪の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、根拠に基づいて介護を行うことができるよう促す。 ・羞恥心や遠慮の配慮、体調の確認について理解できるよう促す。 ・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法について理解できるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身浴のデモンストレーションを行う。 ・ペアになり、擬似的に全身清拭の拭き方や、足浴、手浴、陰部洗浄、洗髪の演習を行う。

<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5時間</p>	<p>5時間</p>	<p>0時間</p>	<p>—</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、根拠に基づいて介護を行うことができよう促す。 ・排泄の身体面、心理面、社会的な意味について理解できるよう促す。 ・プライド、羞恥心、プライバシー、心理的負担、尊厳と生きる意欲などについて理解できるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレ、オムツ交換、尿器、差し込み便器のデモンストレーションを行う。 ・ポータブルトイレを使用し、実際にベッド上からの移動も含め、排泄介護の実際を演習を通して学ぶ。 ・ベッド上でのオムツ交換の実際を演習を通して学ぶ。
<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5時間</p>	<p>5時間</p>	<p>0時間</p>	<p>—</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができるよう促す。 ・安眠のための介護の工夫について理解できるよう促す。 ・褥瘡予防の為のベッドメイク等の環境整備について理解できるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドを使用し、環境の整備や安全安楽な姿勢と褥瘡予防に対し、介護の実際を演習を通して学ぶ。また、ベットメイキングの演習を行う。

	⑫死にゆく人に関するところからだのしくみと終末期介護	3時間	3時間	0時間	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。 ・終末期ケアや高齢者の死に至る過程や兆候について理解できるよう促す。 ・多職種間の情報共有の必要性について理解できるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取りにおける事例を通してグループワークを行い、死に対する支援方法や尊厳等を考える機会とする。
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	6時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点が得られるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じた介護計画・個別支援計画の策定を事例を通して行う。 			
	⑭総合生活支援技術演習	6時間	<p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例課題を通して、利用者の置かれている環境、現在の状況や気持ち、家族の思いなど全体像をとらえられるようを行う。 ・一人暮らしの左片麻痺の利用者及び失語を伴う認知症の利用者の2事例を設定し、具体的な介護内容や介護の留意点を演習を通して把握し学ぶ。 			
実習		12時間	<p>《実習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・承諾を得ている介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所リハビリテーション事業所、通所介護事業所、訪問介護事業所の中から、受講生の希望を聞き取ったうえで実習先を指定し、1日6時間ずつ計12時間（2日間）行う。 			
	合計	75時間				
10 振り返り（4時間）						
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
	①振り返り	2時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再認識を行うとともに、就業後も学習、研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図れるよう促す。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習における感想等をグループになり討論を行う。 			

②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2時間	《講義内容》 ・今後も継続的に学ぶことの重要性（OJT等）や、実務者研修、介護福祉士、認定介護福祉士（仮称）、介護支援専門員等の介護職のステップアップを考え、身に付ける技術や知識について何を学習すべきか考えられるよう促す。
合計	4時間	
OJTを想定した演習、補講	3時間	《講義内容》 ・新型コロナウイルス感染症に係る臨時的な取扱いをすることにより減少した通学時間数を補うため、該当項目についてOJTを想定した演習を中心に面接指導を行う。
合計	3時間	
全カリキュラム合計時間	133時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること